
社会福祉法人あむ
平成29年度
事業報告書・決算報告書

自 平成29年 4月 1日
至 平成30年 3月31日

社会福祉法人あむ
理事長 松川 敏道

全体を通して

平成 29 年度はワンマイルネット事業を年度途中より社会福祉法人あむの公益的な取り組みと位置づけ地域交流や、地域貢献、障害当事者団体のフォローアップなど継続的に行ってきた。

1.社会福祉法人あむ5か年計画

平成27年度に作成した法人の中・長期的計画である社会福祉法人あむ5か年計画の推進を図りそれぞれの計画を押し進めてきた。

(1) 法人全体

①第2サポートセンター構想

第2サポートセンタープロジェクトを中心として、具体的なセンターの機能等考えつつ、物件の取得に向けて、土地、建物探しを行った。そのような中、サポートセンター裏の駐車場が売りに出されたが、不動産会社との交渉が不調に終わり断念した。新たな土地や建物の取得も考えつつ、現在あむで持っている土地を活用できないかなど継続して検討を行っている。

②重度重複障がい児者への支援

新たな事業を立ち上げるには至っていないが、パートスタッフとして、看護師やOT等の医療職の採用を行い、少しずつではあるが、現状の事業所内での利用者の受け入れを行うことができた。

③公益的事業・ワンマイルネット事業

29年度途中より、ワンマイルネット事業をあむの地域における公益的な取り組みを行う公益事業として位置づけた。

(2) 基礎土台

①給与体系の変更

「あむ」の想いや考え方、今の時代にあった給与体系等を考え、第2次給与体系の変更として本俸、各種手当の大幅な改定を行った。

②人事労働環境

労働環境の整備や過重労働、長時間労働の解消のために、働き方・休み方特任チーフを任命した。また各事業所での業務の効率化の話し合いや、勤務時間調査を継続的に行っている。

2.ワークライフバランスの実現

子育てをしながらの短時間正職員、グループホームの宿直スタッフなど、変則的な勤務形態が増え、スタッフの働き方が多様化してきている。

子育て中のスタッフによる月1回の情報共有、子育て相談の場として、「ママランチミーティング」を行った。話し合いの中から生まれたアイデアをチーフ会議に提案し、子育てしながら働きやすい職場環境、勤務形態を継続的に検討した。

3.あむ的キャリアパス

28年度に作成したあむ的キャリアパスを利用し、各事業所やキックオフミーティングで主体的、客観的に議論を行った。

5.災害対策～大規模災害に備えて

災害発生時の緊急対応や非常持ち出し品の準備などを進めるため、災害支援検討チーム〈なんきゅうとなり組〉が中心となり議論を行った。利用者や家族、地域の方々、スタッフやその家族を含めより安全に生活できるよう、法人として地域に対しどんな役割、機能を持つことができるか検討を進めた。

生活介護事業 びーと

1. メンバーの個別支援計画・支援

「わたしの計画（個別支援計画）」に基づき、活動を組み立て、一人一人にとって充実した支援を心がけた。メンバー自身も計画を意識して活動に参加し、次へのステップアップに向けて取り組む姿が見られた。

そして、びーとが開設されて初めてメンバー1名が就労につながり、H30.3月に全員に応援されながらびーとを卒業された。

今後もメンバーの個々の目標を明確にして、メンバーとスタッフ間が共有し進めていくことに努めていく。

2. 日中活動

仕事では、元気ショップから毎月商品の発注が入り、売り上げが好調だったこともあり、昨年度より作業収支が増額した【7.(2)参照】

缶バッジ・マグネットづくりも軌道に乗り始め、メンバーの個性を活かしたイラストも増えて、バザー等で評判が良く売り上げに繋がった。

まだメンバーのアセスメントと作業種とのバランスが足りていない部分があるため、これからも作業充実を図っていく。

今年度の「ギャラリー展」は、『展示』と『発表』の場の2つを設定し、初の試みをおこなった。『展示』では安達氏に協力を依頼し、今までとは違った工夫されたディスプレイに観に来て頂いたお客さんからの評判も高く、メンバーも喜びを感じることができた。『発表』では、外部からの関係者も多く来訪し、個々の力を発揮する良い機会となった。

3. 他事業所との連携

生活介護ネットワーク会議設立2年目。1事業所（幌西ほうおん）が増え、定期的に集まり、情報交換や合同での事例検討会などをおこなった。また、支援学校との繋がりの話題から、伏見支援学校と真駒内養護学校の先生をお呼びし、学校の現況を聴くこともできた。今後も連携を深めていきながら中央区の生活介護事業所のことを考えていく。

4. スタッフ研修

6月に通所を休みにして、スタッフを2グループに分けて他事業所の見学（カラーズ・ほぬーる・ゆうゆう）をおこなった。利用者の個々にそった支援方法や環境設定を考えて取り組んでいるなど、今後を活かしていくヒントが得られた良い研修となった。

その他、スタッフにとって必要な時には、その都度研修を取り入れていった。

5. 事故防止

今年度は車輻に関する事故が5件起こった。大事には至らなかったが、道路状況や運転時の判断などを確認しながら、事故の無いように心がけていく。

また、メンバーの誤飲事故があったので、活動に入る際の本人の様子などをきちんと把握し、再度起こらないようにしていく。

6. スタッフ体制・勤務時間の整理

今年度のスタッフ体制は、当初の予定より少なかったが、スタッフのスキルを高めながら協力していった。また、業務の負担が大きくなるよう、整理できる部分を考えるなどをして改善を図った。今後も継続してすすめていく。

7. その他

(1) 利用状況

- ・利用登録者：27名（内1名9月にて退所）
- ・利用者数月平均：20.3名
- ・平均障害支援区分：4.7

(2) 作業収入

SC 清掃	ポスティング	公園清掃	ぴーすのお店	元気ショップ	合計
352,500	93,222	171,000	335,400	83,588	1,035,710

〈円〉

(3) 作業支出

作業工賃	材料費他	合計
682,200	116,592	798,792

〈円〉

児童発達支援・放課後等デイサービス事業に・こ・ぱ事業報告

1. 目的・運営

- ・日頃より、よりよい環境・活動設定を考え、個々の状況把握に努め、スタッフ間連携し取り組んできた結果として、大きな事故に結び付くことなく、事業運営することができた。また、保護者向け評価表（厚生労働省）では、『適切な支援』『療育内容』では『満足している』という評価をいただいたが、利用児や保護者の期待に応えられるよう、さらに質の向上に努めていきたい。
- ・利用児が固定して利用してくれることから、大きな変動なく安定した収入が得られることができた。
- ・5か年計画の中の重心児受け入れについては、体制が整っていない事や研修等うまく進めることが出来なかったため、次年度の優先課題として取り組んでいく。

2. 保護者支援の充実

- ・保護者は、協力的で、個別懇談・保護者学習会、にこぱ祭りなどは参加者率が高く、保護者との時間をつくりながら、子ども達のために良い関係づくりが出た。
- ・個別懇談の要望は高く、年2回の懇談は8割以上の懇談希望が有り実施してきたが、十分とは言えないと感じている。
- ・昨年度ガイドライン評価表から、保護者交流の場が少ない・非常時の対応の不明瞭さ、支援環境の整備等、不足・不備等の意見があったことに対し、保護者交流の場は、昨年同様開催と保護者からの要望に随時応える形で開催してきた、また非常時の対応の不明瞭さについては、避難訓練時のブログでの公開や保護者へ緊急時の対応についてのお手紙を再度配布し、避難場所や災害時の対応の仕方などを明確にしてお知らせした。

3. 個別支援の充実

- ・AM 幼児
親子で通所していることから、個別支援計画に準じて療育時間内で、保護者とともに確認しながら療育を進めきた。また、セラピー見学を行い、セラピストから集団での取り組みや個別課題等助言をいただき、日々の療育や個別課題に取り入れている。スタッフのスキルについては（個々の取り組み＋母親支援）難しさはあるが、サポート体制を作り取り組んできた。
- ・PM 幼児
個別課題の充実。発達や障害特性に基づいた支援ができるよう努めてきた。月末に行う個別課題評価会議も継続でき、課題について書式化したことで、誰がかかわっても同じ支援ができる基礎を作り上げることができた。また、目に見える成果もあったことから、発達を踏まえた個別課題の充実に努めていきたい。
- ・PM 小学生
にこぱシートを活用しながら、本人主体の支援計画の作成が少しずつ出来てきた。

普通級に通っている子のクラス（アサーティブクラス）は、保護者の要望が高く、相手の気持ちを知る自分の気持ちを伝える等を中心に、学校生活で起こるであろう場面を想定しながら、活動を組み立て、第三者の介入を積極的に行いながら、独自の活動を展開してきた。他者尊重について、少しずつ言葉として表現することができてきたり、気づきがみられてきたり、子どもたちの変化が見られてきている。ただ、学校や他の場所での応用ができるかなどは、これからの課題である。この取り組みは、どの曜日の子ども達にも応用しながら、様々な形を検討し活用してきた。お仕事活動は様々なことが定着し、GAPを初め、他事業所や地域のお店を活用しての職場体験は、これからのライフステージを考えていくための、きっかけづくりとなってもらったので、継続しながら、新規開拓を含み継続性をもって取り組んでいく必要があると感じている。

4. 連携支援のあり方

- ・幼稚園や保育園・学校・セラピーとの連携については、保護者を通してやりとりをしながら、個別支援計画に基づいた支援のあり方などを話す機会に恵まれ、継続して行くことが出来ている。今年度は、小学校・幼稚園のほうから、開催時期や連携の在り方等提案していただき、よいネットワークができてきた。このネットワークを大切にしながら、連携を継続していきたい。

5. スタッフ育成・研修

- ・自己評価表・キャリアパスを利用しお互いの良いところ探しや努力課題等スタッフ間でのディスカッションを行うことができた。また、面談等で、スタッフの思いを聞いているが、意欲的で向上心があることから、本人の自信へ繋げられるよう育成していきたい。
- ・スタッフのスキルアップに繋がるための経験・研修受講に努めながら、事業所内研修の充実も試みたが不足していたと感じているので、次年度はもっと計画的に見えるかをしながら、個々スキルアップにつながる研修の充実を図りたい。

6. 事故防止

- ・大きな事故なく一年を過ごすことができた。
- ・送迎の頻度は高いため、送迎時の精神（注意・緊張度）を保つことが難しい時もある。事故につながらないように注意しているが、スタッフの負担は大きい。送迎については課題でも多い、療育スタッフがあまり出入りしなくてもいい体制を作っていきたいと考えているが、現実には厳しいものがあり、再度検討事項として手立てを検討していきたい。

7. 非常時の対応

- ・毎月第二週目は防災についての取り組みをすることを決めたため、職員も意識して活動の中に避難訓練を取り入れたり、活動の中で子どもたちと一緒に防災について考えてきたので、避難訓練もスムーズに訓練することが出来ているが、送迎中の対応や保護者との確認事項・緊急連絡について等課題が残った。

8. 訪問型デイサービスの開設について

・『訪問型デイサービス』開設については、情報収集と動向を見ながら、進めていく。職員配置や看護師の配置等を進めていきながら開設へと進めていきたい。

*子育て支援の役割については、他部署と連携を図りながら、協力体制を作り、今後も継続して進めていく。

9. 全体を通して

・スタッフが子ども達に向かう姿勢と意欲はとても高く、時間をかけて取り組んできた。有効な時間の使い方や自己発信等課題はあるが、真摯に取り組んでいるスタッフの姿勢が子どもたちの成長を支えてきた。大きな事故やケガがないのは、それぞれが意識を持って取り組んでいるからと感じている。課題もたくさんあるが、一つ一つクリアしながら、チームワークでそれぞれの力を合わせて取り組んでいきたい。また、5か年計画にある重心児受け入れについては、次年度に持ち越しとなったが、スタッフ間で共通認識や同じ意識が持てるよう、外部研修や事業所見学等を行い、ディスカッションでできる場づくりをしながら受け入れについて検討していきたい。

月別利用延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
児発	146	137	160	150	164	159	165	157	178	186	179	187
放デイ	157	152	171	175	139	162	152	142	149	153	148	166
合計	303	286	331	325	303	321	317	299	327	339	327	353

・児発利用 定員1日10名 1日平均 8.2名

・放デイ利用 定員1日10名 1日平均 7.1名

居宅介護等事業ばでい

事業全体

平成29年度は、新規で7名の方の利用を受ける事ができた。内容は家事援助と小・中・高校生の余暇外出のサポートで、平日夕方、土・日・祝日に定期的な外出を行っている。また平日の午前中の定期利用が少なくなり、それまで断りが多かった帯夕方から夜間のサービスを受ける機会が増えた。結果として、平日に関しては午後3時以降からの利用は大変混雑している。スタッフの勤務時間帯も変化してきており、平日は午後から夜間帯にあわせた勤務、土・日・祝日は長時間勤務の日も増えてきている。一方で平日朝からのサービスもあるため、事業特性を踏まえながら、法人全

体で進めている「働き方・休み方」について、次年度も継続して考えていく必要がある。

1. チーム・組織力の強化

月1回、定例ミーティングを実施している。全体での現状把握・情報共有の場であり、動きを確認する時間でもあった。報告に偏らずに「話し合う」という時間が持てた一方で、月毎の差はあるが、議題の量が多く、次年度は回数や時間を増やしていく必要性を感じている。

2. 業務の「見える化」

事業所業務に関しては、朝ミーティングでの各スタッフや全体の量・進行状況の確認を行う事で共有ができていきている。ヘルパー事業の特徴ではあるが、すれ違いの勤務が多いため、ワンマイル・ネットや係、プロジェクト・チームでの各スタッフの動きを「見える化」して、特定のスタッフへの業務量の集中や偏る事が無い様に、引き続き平成30年度も取り組む。

3. 多様な働き方に対応できる体制作り、パート・スタッフの雇用

今年度、新しいパートの求人応募はなかった。ただ前年度採用のパート・スタッフが1年間の経験を経て、資格要件を満たすことで行動援護サービスにも対応できるようになった。結果、利用が難しい時間帯のサービスを受けられるようになってきている。また特定の時間帯やサービスに集中して勤務ができる体制も出来てきており、柔軟な働き方ができることを活かして求人募集を行っている。

4. 個別支援計画等の作成

平成30年3月で経過措置が終了し、未作成の場合は減算となる、行動援護サービスの「手順書と支援記録」の作成を3月までに全て行った。また個別支援計画に関して、従来は全利用者のモニタリングを年度末から新年度にかけて実施していたが、平成29年度作成分からは各利用者の契約更新月と変更した。

5. 研修

平成30年度も、喀痰吸引研修や行動援護従事者研修のサービス提供に必要な研修を優先的に受講している。その他、年度当初に各スタッフから希望を取り、各々が参加する機会を設けることができた。事業所としては、重症心身障がい者の生活介護事業所へ、それぞれが課題を持ち体験実習をする機会を設けた。

6. さっぽろ行動援護ネットワークへの参加

前年度も実施した、現場スタッフの交流や学習、思いを語り合う「座談会」に4名、新しい交流事業である、「事業所見学会」と「職場交換研修」にも各1名が参加している。管理者やサービス提供責任者だけではなく、現場スタッフが参加し、交流できる良い機会となった。参加した中では、ヘルパーが不足しているという声が多く聞かれた。

共同生活援助事業・空床型短期入所事業 こまち

1. 事業規模の変化

平成29年度は退去者が3名出ている。理由としては体調不良での自宅生活、住み慣れた地域での生活、安心できる環境での生活などを望まれての退去であった。また消防法の改正を受けこまちが以前から借りている414号室と413号室のある棟全室に自動火災報知設備を設置しなければならなくなった。これには多額の費用がかかりさらにオーナーに設置義務があるため、結論が出さず保留のまま1年を迎えた。

これらを受け、413・414室の入居者にハピネスに移ってもらい、413・414室を閉鎖する事になった。なお、413室はこのまま法人として借りており、グループホーム以外の事業所として利用していく予定である。

2. ショートステイ

1階にショートステイ用の部屋を持つ事が出来たため、平成29年度は車椅子の方の利用されている。29年度は2名の利用があった。今後、研修・実習などでスタッフの技術向上を図りつつ、より利用の幅を広げていく。

3. 調理員

当初の計画では当直者の業務負担軽減、予想される利用者増に対応するため、朝食調理の世話人を新たに増員する予定であったが配食サービスを利用することで対応可能なため、「らくらダイニング」という配食サービス事業者を6月から利用している。夕食の調理についても調理員の入れ替わりがあったが、現在3名交代で全日対応している。

4. 利用状況

グループホーム

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用 日数	258	265	309	307	305	296	340	324	255	244	236	245

ショートステイ

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用 日数	22	42	17	32	12	22	27	26	38	24	30	25

5. 今後について

この1年で居室が減り、入居者数、アルバイトを含む職員の数ともに減ってきている。平成29年4月のハピネス開設時には入居を希望されていても答えられない事もあった。さらに上記1の理由により居室が減り、規模は小さくなっている。このように現在は、今年度当初とは状況が変わってきている。

そのため今後こまちでは、夜勤スタッフの確保と職員全体のスキルアップ、現入居者の目標見直しなどを行いつつ、新たな「こまち像」を考えていく。今まで思い描いてきた、大切にしてきた「こまちでの生活」を振り返る。そして現状に合わせた、また今後望まれるであろう「こまち像」を考え具体化していく。

単独型短期入所事業 ふらっぷ

1. 全体を通して

「ふらっぷ」では今年度も利用者が自宅で過すのと変わらないような支援を目指し、単独型短期入所事業を行ってきた。利用者のご自宅でどのように過ごされているのか確認し、なるべく同じような流れで過ごせるようにスケジュールを立てている。

しかしながら、スタッフの配置を行う事が難しく、利用をお断りする場合もあった。今後もスタッフ配置を改善していくことは難しい。その為「ふらっぷ」は事業を休止し、今後はグループホーム「こまち」の短期入所を利用してもらうよう利用者に説明してきた。

すでに大半の利用者は「こまち」での利用を始めている。その際、個別に支援が必要な利用者に関しては、「ふらっぷ」の時と同じように可能な限りスタッフを配置して対応している。また、「ふらっぷ」の新規利用契約も今年度は行っていない。

2. 利用状況

今年度の「ふらっぷ」の年間利用者数は5人で年間利用日数は23日であった。年度途中から「こまち」への利用以降を勧めてきたため、昨年度と比べ少なくなっている。

相談室にっ

開設3年目を迎え、事務所を移転した他、10月からは専従2名と兼任1名体制となった。それに伴い、徐々に相談支援体制も整い、少しずつ幅広い相談にのれるようになってきた。区役所で利用者に対して計画相談を以前より強く勧めたことや、相談室にっ自身が医療機関、障がい福祉サービス事業所、特別支援学校等との連携が広がり、サービス等利用計画作成の依頼件数はかなり増えてきた。

1. 計画相談支援の実績

年齢、障がい等に関わりなく幅広く相談を受け付けてきた。障害福祉サービスの利用開始や更新の時期に合わせての利用が多かった。1月以降、新年度のサービス更新のための相談件数が急増した。

計画作成を含めた行政的手続きは比較的問題なく進めることはできたが、受け入れ事業所の少なさから新規にサービスを導入することが非常に困難だった。その点では、利用者のニーズを満たすことが難しかったといえる。

○利用者：93名

○終了者：10名（平成28年度含む）

*利用者年齢 子ども：35名（38%）

おとな：58名（62%）

*相談類型 計画作成：89名（96%）

計画なし：4名（4%）

*サービス利用 あむのみ：9名（10%）

あむ+他：20名（21%）

他のみ：60名（65%）

利用なし：4名（4%）

2. ミーティング・研修

兼務職員の勤務の関係もあり定期的に関くことはできなかったが、週1回～2回程度、1回1時間半～2時間程度のミーティングを実施してきた。担当する利用者の情報と制度活用および相談の進捗状況の共有、支援策検討を中心とした学びあいの場として機能してきた。

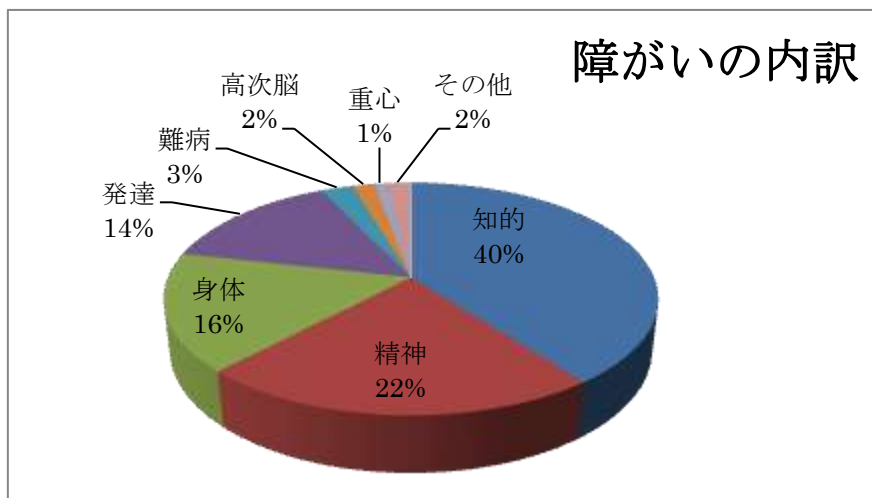
また法人内の他の相談支援事業所（相談室ぽぽ、ワンオール）と共に情報共有、事例検討等のための場「多岐 co 実」に参加した他、相談支援事業所と中央区の勉強会、札幌市自立支援協議会相談支援部会、同精神障がい者地域生活移行プロジェクト、事例検討等の研修に参加した。

3. その他

「札幌市障がい児等療育支援事業」のパンフレットを作り直し、法人としての窓口及びいち実施部署として活動してきた。障害福祉サービスや相談支援では手が届きづらい定期的な訪問による療育や電話による援助などを実施してきた。市と確認の上、発達障がいのあるおとなの支援にも継続的に支援して

653	350	260	1553	159	132	1586	5	4698
-----	-----	-----	------	-----	-----	------	---	------

◆障がい◆



2.委託相談支援事業とサービス等利用計画の作成

今年度は専任スタッフ5名体制で委託相談と計画相談等を実施。委託相談の件数が伸びている実態や区内の指定相談支援事業所の増加に伴い、計画相談が主の相談に関しては適切に指定相談支援事業所に引き継ぐ等で業務の整理を行った。個別の相談においてはケースの引き継ぎに終わるのではなく、指定相談支援事業所との連携の在り方について模索を続けている。他相談支援事業所に引き継ぎの難しいケース等については計画相談支援を継続して作成している。

3.ピアサポーター

知的障がいの方3名、視覚障害の方1名に加えて、今年度は知的障がいの方1名と新たにピアサポーター雇用契約を結び、ピアサポーター交流会等にスタッフと一緒に参加してきた。また、委託相談支援事業に位置付く「ピアサポーター事業」自体を見直す意見交換会にスタッフが参加し、ピアサポーターパンフレットを作成・配置事業所間で情報共有を図ってきた。

ピアサポーターの個別の活動としては、前年度から引き続いて研修講師としても依頼を受け、数多く活動を行ってきた。個別相談に関しては、件数は少ないものの他区の配置事業所からの紹介で病院へ出向いて相談を行うなど、活動の幅は広がってきているように感じられる。

次年度は、相談室ぽぽのピアサポーターの周知をすすめ、個別相談及び活動の幅を広げていけるようにしていきたい。

4.地域資源との関係、地域での役割発揮

身近な地域にある下記のような機関と繋がりを作り関係を計る。このような中で、相談員個々が様々なことを学ぶと同時に相談支援事業等に寄与することができた。

- ①中央区合同勉強会

相談支援に関わる情報共有、考え方の整理、委託と指定の連携、計画相談の検証等を目的に実施。区役所保健福祉課、委託相談事業所、指定相談支援事業所等で構成。

②札幌市自立支援協議会

- ・中央区地域部会（事務局）
- ・相談支援部会（定例会参加、企画推進等プロジェクトチームへの参加）

③外部講師の派遣等

- ・札幌市個別支援計画研修
- ・北海道相談支援従事者研修 など

④その他

- ・相談員同士の各種のネットワーク（事務局等） など

5.相談支援スキルの向上

日常業務の中でのスキルの向上等をめざし、次のような取り組みを実施。

①スタートガイドブックの作成

- ・スタッフがスムーズに業務を行う上での指針を作成

②研修テーマを設定し知識、技術の向上に努める

- ・テーマ設定後、未実施

③日常業務の中でのスキル向上

（1）随時のミーティング（毎朝、及び随時必要に応じて）

個別相談の経過報告、事例の検討、記録の作成、スタッフの行動予定

（2）定例ミーティング（原則毎週水曜日、午前中）

個別相談の経過報告、事例の検討、記録の作成

（3）月末ミーティング（原則毎月最終金曜日、午前中）

会議、研修報告、スタッフ個々人の相談活動の振り返り、記録の作成

（4）スペシャル・ミーティング（年に2回）

個別相談の継続、待機、終了の判断やそれらの目途をつける

④札幌市自立支援協議会全体会への参加

- ・開催時に参加

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

（（H28:00）とあるのは、昨年度実績の数字）

1.個別相談支援業務

平成 28 年 6 月 28 日開催の相談支援部会定例会で整理し共有した『ワン・オールの個別相談の取扱いについて』の共有内容に沿って実行した。登録者数は、13 名（H28：8）で、そのうち 10 名が市外

からの札幌市外からの転居で、居住する区が決まっていない相談、3名が札幌弁護士会からの退院請求ケースとなっている。支援回数は延べ91回（H28：78回）。なお、未登録者への支援回数は延べ332回（H28：216）。個別相談の件数と未登録者への支援件数が共に増加している。

2. 委託相談支援事業の支援業務

（1）相談支援事業の後方支援

① 相談支援の実践報告

前々年度から持ち越しているが、今年度も開催は見合わせた。相談員対象の研修も増え、さらに企画推進室の事例検討会が実践報告とも重なるため、開催そのものの検討要。

② 「人材育成」と「スキルアップ」研修

スーパーバイズに軸を置いた研修案も上がっていたが、ニーズ把握のため、委託相談の相談員対象にアンケートをとった。自由記述にしたため様々な意見が出たが、敢えて3類型に分類し集計【①価値…9件、②知識…74件、③技術…41件】。②の知識が一番多く、中でも介護保険含めた社会保障制度が多かったため、3月14日開催。講師：社会保険労務士である奥野弁護士。新任職員研修は思考を新たにし、相談支援部会や自立支援協議会のしくみ、歴史などに加え、相談の基本となるソーシャルワークの基本についての講義を元北海道旭川児童相談所稚内分室長の高本氏講師で5月25日開催、グループワークも行った。

（2）「札幌市障がい者相談支援事業」の改善推進

7月に開催された相談支援部会事務局会議で説明、提案を行った結果、基幹相談支援センターのあり方についての検討に修正。個別支援ケースについてなどの見直し資料案を作成。「札幌市障がい者相談支援事業」の改善推進については、平成25年度の「挨拶まわり・課題探し」から一定の時間が経過していることや、札幌市障がい者相談支援事業受託事業所の変更もあり、あらためてご意見をうかがう機会や方法について再考の必要性がある。

3. 計画相談支援の推進業務

（1）計画相談と委託相談のバランスを含めた計画相談のルール化

計画相談 HOW TO 研修で出た課題やワン・オールの問い合わせがあった計画相談の課題を札幌市計画相談担当者と情報共有。アンケート調査は札幌市が実施。

（2）研修会等の企画、運営

今年度から、時間を拡大し、福祉サービスや制度理解を主眼とし、3部構成にしてスライド説明をした。初回8月から、年間4回開催。各回10名程度参加。指定相談事業所のほかに委託相談支援事業所も参加している。要望に応じた研修は、「平成30年度制度改正・報酬改訂トピックス」について、依頼を受けて研修協力を行った。

（3）サービス等利用計画の質の担保

サービス等利用計画検証の仕組みづくりの準備には至っていない。非定型支給決定よりも現行マニュアルの熟知、解釈の統一化が先である。区によって取扱いに違いがある弊害の方が大きいのではないか

と思われる。

4.地域相談支援の推進業務

4 病院から 5 ケースの相談があり、内 2 ケースの退院支援と、定着支援を行っている。他の 3 ケースは地域移行の関わりが継続されている。ピアサポーター 2 名体制にて実施していて、さらに配置事業所と兼務しているため、増員の課題が残るものになった。

市内精神科病院から依頼があり、スタッフ向けの研修を 3 回開催。12 月 20 日に市内の委託相談支援事業所向けにピアサポーターの活動報告会を実施。30 名を超える参加の中、ピアサポーター自身による実践報告会を開催している。また平成 27 年度に市内精神科病院へ本事業開始の挨拶訪問をしたが、今年度はその後の地域移行支援の実際や院内研修等の普及啓発活動など、少しでも活動に興味をもってもらうために電話にて経過報告を行った。精神科病院の中では、平成 27 年度の訪問から活動について気にかけてくれていた病院も多数あり、本事業の期待を感じることができた。

北海道精神障がい者地域生活支援事業ピアサポーター研修会、地域移行エリア別研修会、北海道精神科リハビリテーション研究会等に参加。その他所属している配置事業所内で随時研修に参加している。ピアサポーターの年度目標を設定しているため、研修会には計画的に参加でき、そのため地域移行支援（直接支援）に関わる時間を確保できるようにした。

5.障がい当事者による相談支援活動の支援業務

(1) ピアサポーターに関する会議等への参画

配置事業所での意見交換会ではピアサポーターの実務の違い等を共有し、互いに良いところを学びあう関係性が構築できた。ピアサポーター利用に関するパンフレットを作成し、ピアサポート活動の関係機関への周知も協力して行った。今後は互いのピアサポート活動の連携の在り方も検討していく。

(2) ピアサポーターの養成

月 1 回のピアサポーター交流会を通してピアサポーターの現状の活動や悩みを共有し、互いに学びあう姿勢で活動できた。

6.札幌市自立支援協議会の事務局業務

(1) 協議会（全体会、運営会議、各プロジェクトチーム）事務局業務

事務局として、全体会 2 回、運営会議 12 回、各プロジェクトチーム会議計 40 回の会議開催の準備等に関わっており、障がい福祉課との共同により資料準備、記録作成等を行っている。次期「さっぽろ障がい者プラン」作成への関わりとしては、運営会議から 4 名が計画検討部会の委員として参加しており、プランの中身に対しても運営会議や各プロジェクトから上がってきた意見を自立支援協議会の意見としてプラン反映につながっている。地域生活支援拠点の検討については、隔月で札幌市の担当係との意見交換を運営会議で開催。平成 29 年度第 2 回全体会にて、知的障がい者・身体障がい者地域生活推進プロジェクトの承認につながっている。運営会議においては、求めに応じて、当所の活動状況報告を行い、内容や構成員が類似する会議の状況把握を行った。協議会全体では、年間計画の作成や、行政と

の意見交換開催状況共有等が持ち越しとなっている。

(2) 相談支援部会事務局業務

今年度から会議体の変更があり、定例会とその準備のための事務局会議、事務局会議で整理された議題を協議する場として新たにエリア会議（市内を4つのエリアに分けた会議体）で構成され、各会議を月に1回実施している。事務局会議も各エリアの代表が加わり、各エリア会議、定例会での議論の整理を行っている。事務局として札幌市障がい福祉課と協同しながら事務局会議の進行、記録、定例会の記録を担い、構成員間での記録の共有や、会議進行にあたる準備を行った。昨年度に引き続き、ワン・オールの報告を定例会で実施。「課題調べシート」については、15件の提出があり、主に定例会内でその制度や実態、相談支援事業所の対応方法について共有を行っている。相談支援部会のプロジェクトでは、企画推進室が12回（内研修3回）、地域支援員会議が3回開催。これまでの、子ども部会や札幌市認知症支援事業推進委員会に加え、札幌市障がい者施策推進審議会計画検討部会、障がい児支援体制検討部会にも協力を行っており、随時報告を共有した。

(3) 各区地域部会

各地域部会へは、地域部会連絡会も含め、今年度現在まで、計91回の会議にオブザーバーとして参加している。豊平区、北区地域部会においては、部会からの研修依頼で自立支援協議会の成立ちとその役割・機能についての説明をしている。その他の地域部会においても、必要に応じて他区の状況や自立支援協議会全体についての情報提供を行った。地域部会の見える化資料については、「地域部会運営ステータス」を更新し、ホームページへの掲載をしている。札幌市のホームページとの棲み分けについては、各区地域部会と共に検討。また、今年度は地域部会連絡会も計画的に開催されており、事務局機能として議題の取りまとめや資料作成などを行っており、今後も運営会議と地域部会連絡会のスムーズな議題のやり取りができるようにつとめていく。

7. 地域支援体制の構築

(1) もれやすい課題、見過ごされやすい課題へのアプローチ

(2) 「誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務」の推進

10月に札幌市と共催で実施した「支え合い研修」においては多くの町内会、福祉関係者が参加し災害避難に関しての関心の高さを感じた。研修において、あんまちコーディネート事業による災害時避難モデルも発表する事ができた。避難行動要支援者名簿の存在を、障がい当事者や福祉関係者が知らない事がアンケート調査により分かってきている。今後は障がい当事者や福祉関係者にも当事業の啓蒙活動を行っていく。

(3) 市内関係機関との連携

機関類型別の支援件数は、司法が117件（H28：89）、行政が85件（H28：81）、専門機関（公設・民間）が58件（H28：65）、障害福祉サービスが57件（H28：34）、医療機関が31件（H28：29）など。これら以外に市外が125件（H28：141）となった。

(4) 生活圏域での連携

(5) 地域づくりの推進

夢民が主催する、「相談支援ネットワーク会議」へ3回参加。また、夢民や他市町村からの来所や、振興局と札幌市障がい福祉課も加わっての意見交換会に参加。北海道自立支援協議会では、地域づくりコーディネーター部会と共同ワーキングに参加。

(6) 研修支援、人材育成支援

北海道の相談支援従事者研修や、札幌市社会福祉協議会のなどからの研修講師依頼に対応。

8. 情報提供、情報発信

(1) ワン・オール・プレス<機関紙>

機関誌については、3回発行。今年度発行から、より様々な機関の情報を発信できるよう、またワン・オールの活動がより伝わるよう、ワン・オールが参加している会議体や、連携をしている機関を中心に、ワン・オール以外の機関から寄稿いただいている。これまでに、児童発達支援センターについてや、社会福祉協議会についてなど寄稿いただき、より幅広い内容での発信に努めている。

(2) ワン・オールかべ新聞<ホームページ>

「協議会情報面」では、各区地域部会運営ステータスを新たに掲載。「協議会・部会カレンダー」については、各区地域部会の協力の下、開催情報の充実を図った。「お役立ち情報面」では、厚生労働省や札幌市からの通知などを掲載しているほか、障害者総合支援法と児童福祉法の一部改正や、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定についても随時情報を更新。「研修情報面」については、研修受講対象者により掲載が難しいケースがあった。

今年度のアクセス件数は、「ワン・オールかべ新聞」が31110件（H28：29234）、1日平均約85件（H28：約80件）。「ワン・オールブログ」が3894件（H28：3518件）、1日平均約11件（H28：約10件）。

9. 運営体制

スタッフ体制について、再委託での職員派遣について、これまでの法人に加え、新たに別の法人からの派遣をいただき、2つの法人からの派遣をいただいた。ピアサポーターについては今年度も2名体制を維持できたが、今後ピアサポーターの人材確保が課題となりそう。ミーティングについては、報告事項の共有や、協議のため、ミーティングを38回開催。運営委員会について、札幌市障がい福祉課と協議の上、構成員の拡大と、開催時期の見直しを行った。

地域ぬくもりサポート事業

地域ぬくもりサポート事業は、障がいのある人や発達に心配のある子の日常生活を地域全体でサポートしていくため、地域住民（地域サポーター）による有償のボランティア活動を推進する札幌市の事業である。

当法人が札幌市より運営委託を受け、地域ぬくもりサポートセンターとして、手助けを求める方と、

誰かの役に立ちたいという想いを持った地域サポーターをつなぐ役割を担い、活動を展開している。

「地域に暮らす人同士、お互い対等な人間関係のもとで築かれる助け合いの輪を広げていきたい」というこの事業の趣旨は当法人のミッションである「出会いからつながりを編み、結び目を作る」と理念が合致しており、ミッションを体現する事業と言える。

月別支援件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
あむ	57	43	54	53	47	54	41	58	65	65	75	66	678
あむ 以外	33	56	63	38	45	53	68	16	60	48	63	35	578
合 計	90	99	117	91	92	107	109	74	125	113	138	101	1256

支援内容内訳

支援内容	あむ	あむ以外	合計
外出支援	304	61	365
育児支援	21	258	279
家事援助	220	131	351
見守り・話し相手	67	14	81
庭仕事・除雪	3	12	18
活動支援	8	79	87
コミュニケーション支援	35	1	36
その他	20	22	42
合計	678	578	1256

サポートセンター担当区別支援実績

サポートセンター	担当区	件数
あむ	中央区	589
	南区	4
	豊平区	83
	清田区	2
HOP	西区	232
	北区	70
	手稲区	18
わーかーびい	東区	77
	白石区	155
	厚別区	26

地域サポーター年齢層・男女比（あむ）

	男	女	合計
10代	1	1	2
20代	13	19	32
30代	18	13	31
40代	16	18	34
50代	5	22	27

利用者年齢層・男女比（あむ）

	男	女	合計
10歳未満	17	0	17
10代	10	7	17
20代	7	2	9
30代	4	18	22
40代	9	20	29

60代	14	22	36
70代	6	13	19
80代	0	2	2
合計	73	109	182
平均年齢	44.9	49.3	47.6

50代	4	20	24
60代	8	14	22
70代	3	10	13
80代	4	5	9
90代	0	5	5
合計	66	101	167
平均年齢	33.6	52.4	44.9

地域サポーター職業別・男女比（あむ）

	男	女	合計
会社員	28	16	44
アルバイト	7	14	21
主婦	0	39	39
学生	9	16	25
自営業	6	3	9
無職	23	21	44
合計	73	109	182

利用者障がい種別・男女比（あむ）

	男	女	合計
知的	7	2	9
発達	24	11	35
精神	9	29	38
視覚	1	14	15
肢体	16	39	55
難病	5	3	8
重症心身	1	0	1
重複	3	3	6
合計	66	101	167

2017年度は元気ショップとタイアップして、札幌市内イオン各店舗において、6回（各2日ずつ）PRイベントを行い、地域サポーター募集の呼びかけを行った。予め広報さっぽろにイベント開催の告知を掲載されたことで、サポーター登録希望者が来店し、登録につながり、また当日このイベントでぬくもりサポート事業のことを知った来店者が登録してくれたことで、地域サポーター登録者を39名増やすことができた。

また、マルヤマクラスサマースクールにおいて、サポートセンターが企画運営し、夏休みの小学生向けイベント「車いす de バリアフリーチェック」を行い、地域で暮らす障がいのある人への理解を深めてもらう活動を行った。

地域の役に立ちたいという思いを持つサポーターの力を生かすことで、地域に住む障がいをもつ人、子の新たなニーズを発掘し、障がい者支援の知識や経験等を持たない人による支援、障がい福祉サービスの枠組みによらない支援の可能性を広げることができた。

課題としては中央区に比べ、他の区（特に南区、清田区）は地区間の距離が離れており、公共交通機関での移動に時間がかかるため、車で移動ができないサポーターの場合、活動できる範囲が区内の徒歩圏に限られてしまう。そのような理由もあり、活動件数を伸ばすことができなかった。

一人でも多くの利用者からの依頼に応えられるよう、地域サポーターを増やすため、引き続き事業のPR活動に努めていきたい。

- PR活動

イオンPRイベント（9月から2月各2日間 発寒店、東札幌店、平岡店、苗穂店、新さっぽろ店、元町店）

PRイベント開催告知について広報さっぽろおしらせ欄（9月号～1月号）に5回掲載

マルヤマクラスサマースクール「車いす de バリアフリーチェック」8月6日

STVテレビ2月3日放送 札幌ふるさと再発見

区役所、まちづくりセンター等公共施設、地下鉄駅構内等ポスター掲示、チラシ配布

札幌市ホームページ、Yahoo!ボランティア 情報掲載

広報 ami.com

全体として

継続課題である、広報誌の作業工程の見直しと作業の効率化、ホームページのリニューアルなどに取り組んだ。

（1）わんまいる・みゅ～じあむ

平成29年度は1回の発行を行った。昨年度同様にデザイン担当者が会議に参加してもらえたことで、会議で出た改善点を即座に形にしてもらう事ができ、結果として今までよりもデザイン性が向上し見やすく、読み応えのあるものが作成できた。今後も「くあむ」の広報誌としての役割を考え「読みやすさ、伝わりやすさ」については意見交換をしながら、新たに広報誌以外の情報発信の媒体を模索し広報活動に努める。

（2）ホーム・ページ、ブログ

現在ある全体のホームページのリニューアルに関しては継続して取り組んでいく。平成29年度に関しては、各事業所からホームページの要望を聞いた上で、専門の方を招きホームページ作成のアドバイスや見積りを行った。平成30年度のホームページリニューアル完成を目指す。

（3）掲示板

SCの掲示板の項目分けを実施し、チラシの内容に応じてコーナーを区切って見やすくした。

実習受け入れ

社会福祉士を目指す大学生の実習を受け入れた他、介護福祉士を目指す専門学校生、作業療法士を目指す大学生、高等養護学校の職場実習を受け入れた。

サブチーフを中心として実習受け入れ委員会を組織し、実習スケジュール、事業所間の連絡調整、実習生への指導、助言、養成校との連絡調整等を行った。

法人、事業についての理解を深めてもらうためのオリエンテーション、実習生が分からなかったこと、困ったことなどの疑問点、悩みを解消するためのフィードバック、スーパーバイズ等を通して、実習指導者自身が自分たちの仕事を振り返り、指導力、伝える力を身につける機会になっている。

平成 29 年度は社会福祉士実習において、脳性まひの障がいがある実習生を受け入れた他、高等養護学校の職場実習として、知的障がいのある高校生の実習を受け入れた。障がいのある学生の資格取得、就労を支援するための実習受け入れを当法人の役割として、引き続き積極的に受け入れていきたい。

実習受け入れ委員会

- ・ 責任者：社会福祉士実習指導者（法人事務局：姉帯）
- ・ 副責任者：各部署のサブチーフもしくはそれに代わる者
- ・ 社会福祉士実習指導者：5 名（平成 29 年 3 月現在）

実習受入実績

- ・ 社会福祉士実習 23 日間 北海道福祉大学校社会福祉学科 3 年生：1 名
- ・ 社会福祉士実習 23 日間 札幌学院大学人文学部人間科学科 3 年生：1 名
- ・ 介護福祉士実習 5 日間 せいとく介護こども福祉専門学校 介護福祉士科 1 年：3 名
- ・ 地域作業療法実習 5 日間 北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科：2 名
- ・ 地域作業療法演習 2 日間 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科 3 年：2 名
- ・ 職場実習 10 日間 札幌高等養護学校 産業科 2 年：1 名

計 10 名 68 日間

SAT

1. 研修について

基本的な知識の獲得は、各スタッフが自主的に行い、SAT では専門的な知識・技術の習得を図るため、以下のような研修を行った。

5 月 ディナーミーティング

8月 職員合宿 ～アサーティブコミュニケーションについて～

コミュニケーション・ナビゲーター 姉帯 美和子氏

10月 虐待防止法出前講座

11月 実践交流会

12月 障害者運動は何を訴えてきたのか ～日本とイギリスの障害者運動史から～

北星学園大学社会福祉学部教授 田中耕一郎 氏

2月 実践交流会

- ・スタッフの学びたいことを土台に、研修スケジュールを組むことができた。
- ・実践交流会は、エントリー方式で2年をワンクールとし行った。しかし、2年で全スタッフは行えないため、H31年度の方法はその時に考える。
- ・玉突き研修はエントリーは日程が合わず次年度行う予定。

2. 研修情報の共有について

- ・今年度は、メールで研修案内を周知した。今後もメールでの研修案内を行っていきたい。

3. ディナーミーティングについて

- ・研修内容を考えるにあたり、ディナーミーティングでスタッフに何を学びたいかを出し合ってもらった。それに沿って、研修スケジュールを組み立てることができた。

4. 事例検討会

- ・H29年度は行わなかった。(今年度スタッフが学びたい内容の中にはあまり出ていなかった為)しかし、事例検討を行ったことがないスタッフが増えてきており、全体で勉強する時間は必要だと思われるため、次年度は野中式事例検討の解説から実践まで行っていけると良い。

ワンマイルネット事業

1. ワンマイルネット事務局

ワンマイルネット事務局はNPO法人あむの会計、賛助会員管理の他、イベント情報の発信や問い合わせに対する連絡窓口としての役割を担っている。

また幌西第12分区町内会班長業務(回覧板の管理・町内会費集金等)や西屯田南8条商工会会員として、総会、行事への参加、情報交換等を行った。

2. まちづくり事業

《なんきゅう夏祭り》

日時 7月30日(日) 11時～15時30分

会場 わんぱく公園、南9条通サポートセンター

〈あむ〉周辺にお住いの方々にも協力頂き、実行委員会を発足し企画・運営を行った。パフォーマーによるステージや南8条商工会との共同遊びブース、屋台、縁日、バザーの出店の他、北海道文教大学、札幌ビューティーアート専門学校、就労継続B型事業所エールアライブの参加もあった。

大人から子どもまで地域の方が多く参加し、交流を深める事ができた。来年も、わんぱく公園での実施をし、地域の方と繋がる場所にしていきたいと考えている。

《ごはんプロジェクト》

・プロジェクトのテーマ・・・『食』を通じた人とのつながり

プロジェクトのテーマである「食を通じた事業について検討」することを実施。29年度は「ばんごはん食べてけば？」の活性化、つぶやき拾いやアンケートからニーズを探る「ニーズ調査」、地域資源との繋がりを強化する「まじっちゃおう！」等の開催等に取り組んだ。

・ばんごはん食べてけば？ など

毎月第2木曜日 17時から20時まで、参加費300円(小学生100円)で、誰でも参加自由の夕食会〈晩ごはん食べてけば？〉を開催。29年度は3回の未実施(アスモフードサービスとの厨房調整やインフルエンザによる通所閉鎖等)があり平均すると昨年よりも少ない参加人数となったが、最小人数は昨年よりも10名程高い数字が出ている。平均して安定した参加者で開催された。相変わらず初めての参加者が見られた等の事はあり、今後も継続する意義が見えた。30年度も継続して行い引き続き〈ばんごはん食べてけば？〉の活性化を目指す。

さらに地域資源との交流を深める〈ご近所交流会 SCでまじっちゃおう！〉を実施。3回目となった今年も多く参加があり「次年度以降も継続してほしい」という声を参加者から頂いた。

H29年度 〈ばんごはん食べてけば？〉

最多：58名(7月) 最小：38名(2月) 平均：36名

	大人	小学生	未就学	合計	メニュー
6月	38	7	4	49	ウィンタースポーツ部メニュー
7月	36	14	8	58	夏はやっぱり流しそうめん
8月	34	8	9	51	屋台メニューだ、わっしょい!
9月	36	4	4	44	となり組、防災メニュー
10月	36	7	8	51	秋の味覚「焼き芋」

11月	36	6	6	48	卓球部メニュー
12月	30	6	5	41	クリスマス、スウィーツ部メニュー
1月	30	12	7	49	恒例！新春もちつき！
2月	29	6	3	38	巻き巻き、恵方巻き！

H29〈SCでまじっちゃおう！〉

2月17日（土）18時～20時で開催

参加者 60名（あむスタッフ30名、総参加者90名）

・「食」に関する地域マップの作成

地域マップ作成に向けた“つぶやき拾い”（ニーズ調査）のためのアンケートを実施

- ・〈ばんごはん食べてけば？〉の内容に関するアンケート
- ・普段の外食先、“あったら良いな、こんな店”に関するアンケート

「ごはんマップ」作成の材料にする

・すべてに共通した取組み

「活動の目的」と「取組んでいること」を近隣の人達に知ってもらうため、「ばんごはん食べてけば？」での“ご近所チラシ”配布や掲示板、ブログ、ブラックボード等を活用し広く周知した。掲示板やブラックボードを見て「なんか楽しそう！」と感じ入場してくれた参加者もいた。次年度も継続して「ごはん」をツールに地域と繋がる事を検討する。

3. 子育て支援事業

《ころころひろば》

毎週水曜日午前10時から11時30分まで、〈に・こ・ば〉を会場として、集団での活動が苦手な子でも安心して参加できるよう、少人数規模の子育てサロンとして活動している。今年度は1歳前後のお子さんが多く参加し、母親通しのつながりができることで、情報交換の場となっていた。にこばの引っ越しなどもあり、お休みすることもあったが、計45回開催した。

月別参加者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	7	2	2	8	11	8	17	3	5	10	9	91

《リトミック教室》

親子で参加し、音楽に合わせたリズム遊び、楽器遊びなどを行うリトミック教室を通年（月1回）開催した。

全登録者：13組

- ・6月、7月は参加者3組だったが、その後は毎回6組平均で参加している

会場 あげぼのアート&コミュニティセンター

講師 高橋幹子さん

《昔あそび》

幌西会館で活動している老人クラブの長栄会さんに協力していただき、お手玉・あやとり・ビー玉・けん玉・こま回し・めんこ・輪投げ・おはじきなどの遊びを教えてもらいながらのイベントをおこなった。

10月28日 10:00~11:30 会場 幌西会館2階
札幌市中央区南11条西14丁目1-20

4. 障がい者支援事業

《お知り合い協会》

主に知的な障がいのある当事者が集まり、交流する「お知り合い協会」の活動を支援した。世話人（当事者）の方々が主体となれるよう世話人会の運営を支えた他、交流会、イベントの開催、準備をサポートした。

2017年度は会として初めてなんきゅう夏まつりに参加し、札幌学院大学松川ゼミの学生といっしょに遊びコーナーを担当した。

また地域で暮らす障がいのある人たちに呼びかけ、温泉バスツアーや新年会を企画した他、世話人が中心となって、障がいのある人自身がこれまで歩んできた人生やこれから夢を語り合い、伝えることで、障がいのある人、子どもと関わる仕事の楽しさややりがいを感じる機会を作りたいと考えて「障がいがあったって人生イロイロ！」を企画、主催した。

5月19日 世話人・スタッフ交流会
6月25日 温泉バスツアー（定山溪温泉 湯の花） 14名参加
7月30日 なんきゅう夏まつりで遊びコーナーを担当
1月20日 新年会 32名参加
3月10日 障がいがあったって人生イロイロ！ 43名参加

5. 夢の種を咲かす会

GAP 札幌ステラプレイス店に勤める松本氏よりいただいた10,000ドル（約100万円）の寄付を原資に、リンゴの木のオーナーになって、あむ利用者、スタッフ、GAPスタッフがみんなで収穫に行き、交流しようというイベント〈夢の種を咲かす会〉を開催した。

日時 9月23日（土）

会場 仁木町 瀬尾観光農園

参加者 70名